

### 3 分析・考察

#### ① 保護者アンケート結果より

- ・コロナ禍による行事の変更や中止が多く、その都度手紙やホームページで保護者に伝えていたが、周知が不十分なところがあった。
- ・保育参加や保育参観などが中止になり、保護者との情報共有の場を設ける機会が少なかった。
- ・花や野菜の栽培などを通して、食への興味・関心を引き出し、食べる事への意欲に繋げる事ができた。

#### ② 自己評価から

- ・「教育課程・指導・環境構成」に関しては、もう少し努力を要するの項目が多かった。日々の保育の振り返りを行い、期・年間・月・週の計画を見直し、幼児の発達理解を深め、主体性を育むような環境作りを今後もより考えていく必要がある。
- ・「情報提供」では、園だよりやクラスだよりなどで情報発信を行っていたが、伝わりにくい部分があったので、ドキュメンテーションの掲示やホームページの活用など工夫が必要。

#### ③ 生活リズム・生活習慣

- ・望ましい生活リズムについては、「かみはらっこ げんきキッズカード」を通して、成果がみられるものの、就寝時間については依然、遅い傾向にある。また、コロナ禍による家庭保育の協力期間や臨時休業等があり、家庭で過ごす時間が長くなることで、生活リズムの乱れが見られた。そのような状況に対してどのようにアプローチしていくかが課題。
- ・コロナ禍での新しい生活習慣を身に付けるために、手洗いの仕方、マスクの管理の仕方など工夫を凝らすことで子ども達にも定着しつつある。

#### ④ 学校関係者評価

評議員、学校関係者意見

- ・元気いっぱいの園児たちの姿にうれしく、コロナ禍での諸行事の報告に感謝です。今後、地球環境から園児・子ども達の健康面が心配です。対応をご期待します。

## 4 改善方針・改善策

### ①基本的な生活習慣の定着

- ・「早寝・早起き・朝ごはん・8時15分登園」の生活リズムが定着できるように、家庭との連携を図る。
- ・忘れ物ゼロを習慣づけられるように持ち物チェック表の配付を行い家庭に周知し、親子で意識向上を図る。
- ・家庭支援に必要な幼児は、保育園、小学校、行政機関との情報交換を図り支援の工夫に努める。

### ②規範意識の育成

- ・一人ひとりを大切にされた対応を行い、丁寧な言葉遣い、名前にさんづけの定着で温かな人間関係を築く。
- ・集団生活でのルールやマナーがある事を知らせ、相手の思いを受け入れつつ、自分の思いも安心して伝えられるような機会を持てるようにする。

### ③話を聞き、話す意欲や態度の育成

- ・朝の会、帰りの会、全体集会、読み聞かせ等、様々な場面で話しを最後まで聞く態度を育てる。
- ・心を揺さぶり、話したくなる聞きたくなるような保育の充実を図る。

### ④家庭との連携の強化

- ・ホームページや園だより、クラスだよりの活用方法を見直し、園の教育・保育についての発信や理解を図る。
- ・保育参観や保育参加の開き方を工夫し、情報共有の場所と時間を確保する事で、保護者と連携した子育て支援へつなげていく。